効果倍増
わたしの教材活用術

「らくらくノート」の有効活用

岡山市立西大寺小学校教諭　澁谷　大志

Ⅰ．はじめに

ここでは，私が２年生の時から担任している３年生の様子に限定して「らくらくノート」を有効に活用するための取り組みを紹介したいと思います。

３年生の子どもたちが「らくらくノート」と出会ったのは，２年生の時になります。２年生といえば，ノート作りの基礎・基本を身につけていく大事な学年であり，新年度のノートの採択にあたって「どの子どもにも決まった形式で基本的なノートの作り方を継続的に指導することができる」と考え「らくらくノート」を選択することにしました。

「らくらくノート」には漢字と計算の２つのノートがあります。２年生の時は計算ノートを，３年生１学期は漢字ノートと計算ノートを，２学期以降は計算ノートのみを使用しました。

つまり，計算ノートは継続的に，漢字ノートは３年生のはじまりの４か月間に限って使用していることになります。ここでは，長い間使用している「らくらくノート計算」を中心に紹介したいと思います。

Ⅱ．３年生の実態

３年生では一般的に，大きな罫線やマス目をもとにした低学年ノートから，高学年でも使用する方眼ノートに移行します。

整理されて見やすいノートを作る力は学習を進めていく上で必要不可欠な力であり，高学年以降でも使用する方眼ノートを初めて使う３年生は，その後の学習支援を左右する重要な時期と言っても過言ではないでしょう。

しかしながら，低学年ノートと方眼ノートの違いに混乱してしまい，なかなか方眼ノートの書き方を身につけることができない子どもがいます。そのような子どもに対しては個別に何度も書き方を指導するしかありません。しかし，子どもにとってできないことを何度も繰り返し指導されることはつらいことであり，自信や意欲をなくしてしまう原因にもなっ

てしまいます。

できるだけわかりやすい形でノートを書く力を身につけられるよう支援・指導を工夫していくことが求められていると言えるでしょう。

また，この時期の子どもたちは学校生活にも慣れたためか，急に字を崩して書き始めたり，定規を使わなかったりと，低学年までの姿勢が崩れてくる子どもが出てきます。このような児童に対してはその都度個別的な指導が必要になってくるわけですが，指導する私たちも他の指導に追われ，現実的にはそのような指導はできにくいものです。またそれだけではなく「見やすいノートを作る心地よさ」「見やすいノートの便利さ」をしっかりと一人一人に体感させることも重要ですが，現実的にはそれもなかなか難しいものです。これらの課題に対していかに支援・指導をするか。この時期のノート指導は低学年までのノート指導とはまた違った工夫が求められていると言えるでしょう。

Ⅲ．指導の実際

このような課題に対して有効な手だてとなりそうなのが「らくらくノート」でした。まずは，どのような場面で「らくらくノート」を利用し，どのような場面で一般のノートを利用したのかを紹介します。

⑴　らくらくノート計算

基本的には計算ドリルの宿題専用ノートとして使いましたが，授業中に計算ドリルに取り組む時にも使いました。（通常の算数授業用と家庭での自主学習用にはそれぞれ別々に10ミリ方眼ノートを使いました。）

⑵　らくらくノート漢字

「らくらくノート計算」と同様，宿題専用ノートとして使いました。また，これとは別にマス目だけの漢字練習ノートも宿題ノートとして使いました。なぜ２つのノートを併用したのかは後ほど紹介します。

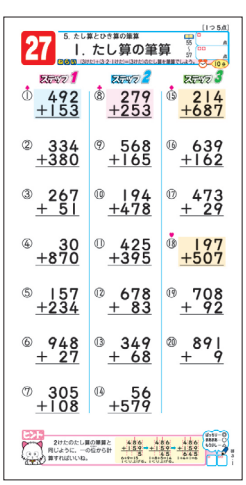
Ⅳ．「らくらくノート計算」の長所と短所

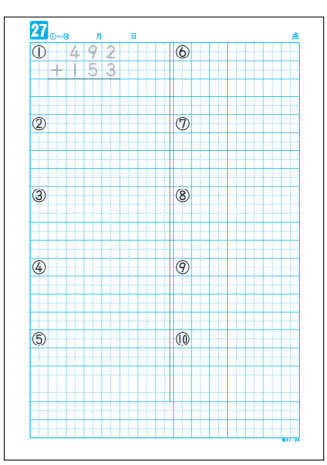
実際に使用してみると，使えば使うほどその長所が感じられました。また少しずつ短所も見えてきました。以下に挙げてみましょう。

＜「らくらくノート計算」の長所＞

①ドリルの問題に対応したノート構成になっている。

②ノートに問題番号があり，計算と計算の間隔がすっきり取れるようになっている。（ノートがぐちゃぐちゃになりがちな児童でも，とても見やすいノートになる。）

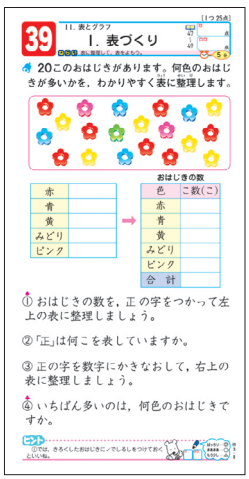


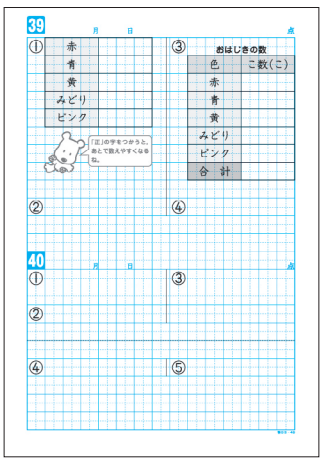


③表やグラフの問題に対しては，らくらくノートに解答用の枠があり，そこに書き込めるようになっている。(計算ドリルに書き込ませたり，特別にプリントを用意しなくてもすむ。)

④ノートが見やすいため，丸付けがとてもしやすい。また，ドリル番号が指定されているノートなので全員必ず一回通りはしたことを容易に確認することができる。

⑤ノートが見やすいため，自分が間違えた問題がすぐわかる。そのため，間違い直しに取り組みやすい。





⑥ノートに余白があるため，教師から励ましのコメントを書いたり，つまずいている部分への具体的な指導を書いたりすることができる。

⑦最後に自由ページがついており，繰り返し学習にもある程度対応している。

⑧整理されて見やすいノートができあがるため，自然と丁寧な字で書いたり，ものさしを使ったりする。

⑨ノート作りに気を遣う必要がないので，学力的に支援が必要な子どもでも無理なく取り組むことができ，算数の問題に集中することができる。

⑩保護者にとっても子どもの学習到達点が容易にわかり，家庭で指導がしやすくなる。

<「らくらくノート計算」の短所>

①自由ページはあるが，一回しかできず，繰り返し学習に向いていない。

②便利すぎて，ノート作りそのもの（見やすいように問題と問題の間隔は一行空ける，など）を練習するチャンスがない。「ノートの決められた枠に，機械的に数字や図を書いていくだけの作業」になりがちである。

このように，「らくらくノート計算」は子どもにとっても，指導する教師にとっても「見やすい，わかりやすい」ことによる長所がたくさんあります。一方でその「見やすさ，わかりやすさ」を優先したノート構成によって，繰り返し学習をしたり，ノートを作る練習をしたりすることができにくくなってしまうのも事実です。そこで，一般の方眼ノートを並行して利用することで，これらの課題に対処することにしました。

V.「らくらくノート計算」を教科書にした方眼ノート作り

「らくらくノート計算」はいわば「究極に整理されたノート」と言えます。一般の方眼ノート指導もこれを使わない手はありません。私の学級では，①「らくらくノート」を教科書にして見やすいノート作りを指導する。→②同じレイアウトで自主学習用の方眼ノートにもう一度計算ドリルを解かせる，という取り組みをしました。こうすることで，繰り返

し練習もでき，またノートを作る練習も同時にすることができるのではないかと考えたわけです。

最初は「上手にできない子どももいるかな…」と心配しましたが,「らくらくノート」で一度ノートを作っているためか，どの子ども も想像以上にスムーズに取り組むことができ，今ではとても整理されて見やすいノートを作ることができています。また，自分だけの力で作ったノートを見て「見やすいノートができたあ！」との喜びの声も聞かれます。

２冊のノートを併用する方法は，保護者の負担は増えますが，子どもにとっては「少ない負担で確実にノートを作る力を身につける方法」であり，この取り組みを通してノート作りに自信を持つとともに，きれいで見やすいノートを作る心地よさを感じることができたように思います。

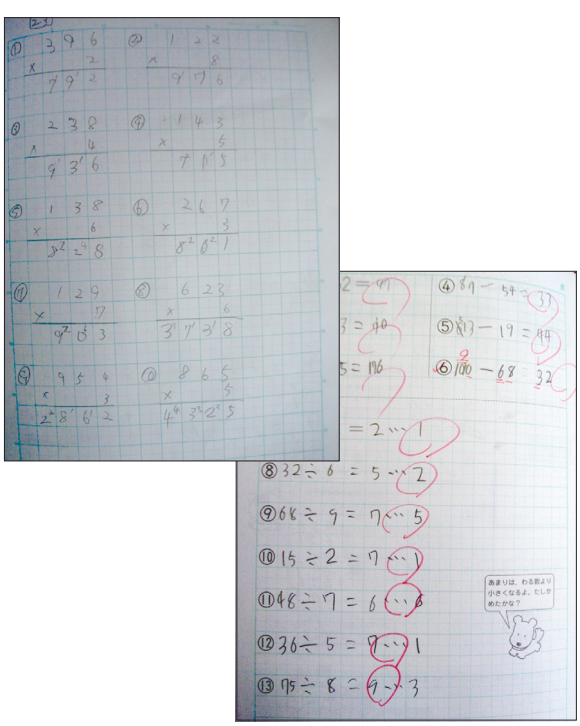
Ⅵ.「らくらくノート漢字」を利用して

「らくらくノート漢字」も「らくらくノート計算」と同じように「見やすく，わかりやすい」ノートになるよう工夫されているので，どの子どもも無理なく学習に取り組むことができました。また，ノートにも手本となる漢字が書かれているので，正確な漢字を書く練習を効果的にすることができました。

しかしながら計算ノートと同様，繰り返し漢字を練習しにくく，またノートそのものを作る練習にはなりにくかったので，４か月間だけ使用し，一般の漢字ノートに移行しました。これも計算と同様,「らくらくノート」を手本として漢字ノートの作り方を練習したので，今ではどの子どもも丁寧な字で見やすいノートを書くことができるようになっています。

Ⅶ. 終わりに

２年間にわたって使い続けた「らくらくノート」。一般の方眼ノートと併用する方法は，少ない負担で確実にノートを作る力を身につけることができ，とても有効でした。

新学期が始まり新しい「らくらくノート」を手にしたとき，「おーし！やるぞー！」「今度は何をやるのかな？」「何回ずつやろうかな」といった声が聞かれます。この前向きな姿こそ，私たちが求めている姿であり，子どもたちが一番輝いている姿だと思います。これから先も，いろいろな問題との出会いを通して，一層成長していくのを願うばかりです。

（22年度までの教材を使った実践例です。）